

令和 6 年度春期 情報処理安全確保支援士試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT 人材教育研究部 2024,7,4

4 月 21 日 (日) に行われた令和 6 年度春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。IPA から発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、情報処理安全確保支援士試験の分析コメントをお知らせします。

■情報処理安全確保支援士試験 (SC)

[令和 6 年度春期 情報処理安全確保支援士試験 統計情報]

応募者	19,565 人
受験者	14,342 人
合格者	2,624 人
合格率	18.3%

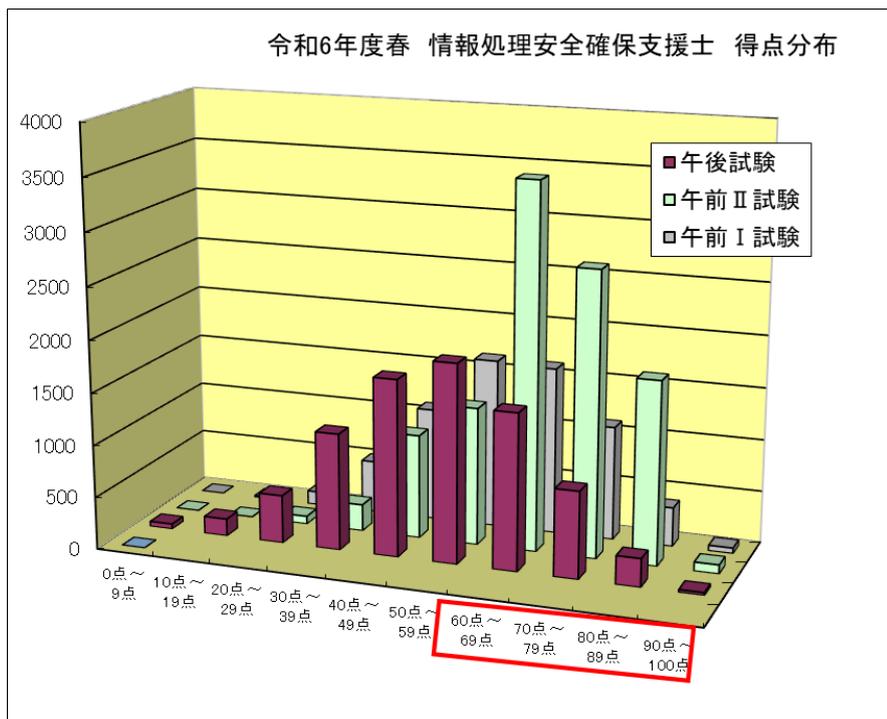
平成 29 年春期から始まった情報処理安全確保支援士試験 (旧情報セキュリティスペシャリスト試験) は、前回 (令和 5 年度秋期) から午後 I と午後 II 試験が一つの午後試験として統合され実施されました。今回の合格率は 18.3% で前回の 21.9% (平成 21 年以降最高) からかなり下がりました。今回は午後試験で出題内容に少し偏りがあったと考えていますが、その影響が出た可能性があります。

発表された得点分布の分析とグラフを示します。

[令和 6 年度春期 情報処理安全確保支援士試験 得点分布とグラフ]

得点	午前 I 試験	午前 II 試験	午後試験	合格者
0 点 ~ 9 点	0	1	48	
10 点 ~ 19 点	14	2	165	
20 点 ~ 29 点	129	75	462	
30 点 ~ 39 点	504	257	1,121	
40 点 ~ 49 点	1,087	1,001	1,695	
50 点 ~ 59 点	1,629	1,323	1,899	
60 点 ~ 69 点	1,606	3,492	1,497	
70 点 ~ 79 点	1,096	2,723	831	
80 点 ~ 89 点	376	1,753	271	
90 点 ~ 100 点	52	85	25	
計	6,493	10,712	8,014	2,624
対前試験比率		165.0%	74.8%	32.7%
午前 I 免除者 (概数)	7,849	54.7%		

合格者数	2,624	採点者数の割合	合格者数との差
午前 I 60 点以上合計	3,130	48.2%	506
午前 II 60 点以上合計	8,053	75.2%	5,429
午後 60 点以上合計	2,624	32.7%	0



午前 I 試験免除対象の人は増える傾向がありますが、得点分布の結果を分析してみると、今回情報処理安全確保支援士の午前 I 試験の免除者は概算で 7,849 人 (54.7%) いて、受験者の半数を超える人が午前 II からの受験となっています。この午前 I 試験で基準点 60 点以上取ることができた人は 3,130 人 (受験者の 48.2%) で、前回の 47.9% とほぼ同じですが、半数以上の方が午前 I 試験を通過できていないことになります。また、この中で 50 点～59 点というあと一歩の人が 1,629 人 (25.1%) もいることから、出題範囲が非常に広い午前 I 試験対策は早めに計画を立て、確実に進める必要があるといえます。

午前 II 試験で基準点以上の方は 8,053 人 (受験者の 75.2%) で、前回の 68.6% からかなり増えています。平易な過去問題が何問もあり、全体に解答しやすかったことが要因と思われます。

午後試験は、以前の午後 I と午後 II 試験が一つに統合されてから 2 回目の実施になりますが、基準点 (60 点) 以上取れた人は合格者数である 2,624 人 (採点数の 32.7%) でした。今回の午後試験の採点者数は 8,014 人 (前回 7,788 人) で、令和 5 年度春期の旧午後 II 試験の採点者数 4,161 人からかなり増えたのですが、午後の試験で出題された 4 問中の 3 問が Web 関連のセキュリティ問題で技術的な内容も多く、実務で類似業務を担当されてない方には難しい内容だったと考えられます。

■ 令和 6 年度春期 情報処理安全確保支援士試験の出題内容について

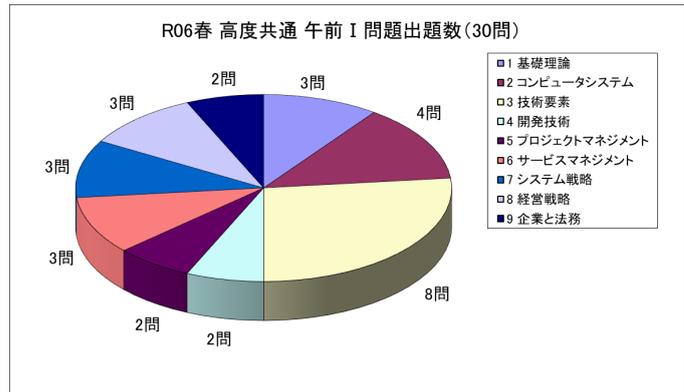
(午前 I 試験 (高度試験の共通知識問題)) 30 問出題 / 30 問解答, 50 分

高度試験で共通して出される午前 I 試験の 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験 (AP) の午前試験 80 問の中から選ばれていて、テクノロジ系 17 問 (57%)、マネジメント系 5 問 (17%)、ストラテジ系 8 問 (26%) という出題比率です。

午前 I 試験には免除制度がありますが、高度試験の約 4～5 割の人が午前 I 試験から受験しています。この中で 60 点以上の得点で午前 II 試験の採点に進む人は 5～6 割で、出題範囲が広いため試験問題を難しく感じる人がかなり多いといえます。難しい問題が多いときには 4 割程度

の人しか通過できないときもあったので、最初の午前Ⅰ試験でつまづかないように、早めに試験対策の学習を始め、確実に知識をつけていく必要があります。

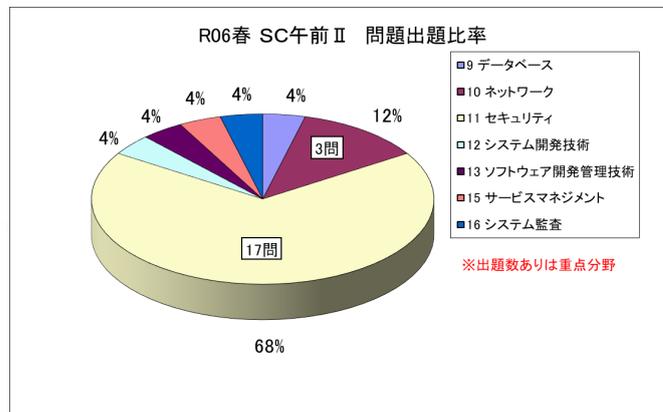
- ・今回の午前Ⅰ試験の内容は、約 6 割が過去問題でしたが、定番といえる問題が増え、前回より解きやすかったといえます。
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ 4 問で、最も多い出題数です。
- ・新傾向問題は 4 問で前回の 5 問と大きく変わっていません。



(午前Ⅱ試験 (専門知識問題)) 25 問出題 / 25 問解答, 40 分

午前Ⅱ試験は基本的な問題が多く、セキュリティとネットワークの専門知識の出題数はそれぞれ 17 問と 3 問の合計 20 問で前回と同じです。新傾向問題は 7 問 (前回は 6 問)、過去問題は従来と同じで約 7 割ありました。全体として難しい問題は少なかったといえます。

過去の情報処理安全確保支援士試験問題の出題は 14 問ありました (前回 11 問から増) が複数年度の過去問題から分散して出題され、R4 年秋の問題が 6 問と最多でした。



(午後試験 (記述式)) 4 問出題 / 2 問解答, 150 分

前回から午後Ⅰと午後Ⅱの二つの試験が統合された午後試験は、150 分の解答時間で、4 問出題のうち 2 問を解答する方式に変わりました。試験時間が短くなったので受験者の負荷は軽減されましたが、今回の試験では、4 問中の 3 問が Web 関連の技術的な内容で、Web 関連のセキュリティ問題を得意とする受験者を除いて、問題選択の自由度が減ったといえます。また、前回試験から、記述式の設問で字数制限のないものがあり、自分の考え方を論理的に整理して、解答を分かりやすく記述する必要があります。なお、問題文の量は 1 問あたり 8~9 ページで、前回初めて統合された午後試験の 4~8 ページより多くなっています。

新しい形式になった午後試験で合格基準点をクリアするためには、情報セキュリティ全般に関する知識を十分に身に付けた上で、問題文に記述された内容をよく読み、本文や図、表に記述された条件などを丁寧に整理する必要があります。その上で、設問で問われていることを的確に把握して解答を作成する必要があります。試験の形式は変わりましたが、令和 5 年度春期試験まで出題されていた旧午後Ⅰ・午後Ⅱ試験の問題と問われる内容は同じなので、演習問題として活用し、解答作成のコツをつかむようにしてください。